

特急「しなの21号」殺人事件



[特急「しなの21号」殺人事件_下载链接1](#)

著者:[日] 西村京太郎

出版者:徳間書店

出版时间:1995-2

装帧:新書

isbn:9784198501914

東京・井の頭公園で男の刺殺死体が発見された。ポケットには善光寺の“凶”のおみくじ。被害者は二カ月前にR銀行を辞め、謎の金満生活を送っていた。彼の交遊関係を示す十二枚の名刺から浮かんだ牧原麻美の行方を追う十津川警部に、長野県警から連絡が入った。名古屋発長野行き特急「しなの21号」の車中で、麻美が毒殺されたという。彼女もやはり善光寺の“凶”のおみくじを持っていた。翌日、新聞社に犯行声明が届いた。そこには三枚目の“凶”のおみくじが同封されている。十津川警部の推理が犯人を追いつめる。

作者介绍:

西村 京太郎（にしむら きょうたろう、1930年9月6日 - ）は、日本の推理作家。トラベルミステリーの第一人者で、十津川警部の生みの親として知られている。本名は矢島 喜八郎（やじま きはちろう）。

東京陸軍幼年学校在学中に終戦を迎え、東京都立電機工業学校（現・東京都立産業技術高等専門学校）卒業後、臨時人事委員会（後の人事院）に就職する。11年勤務後に退職し、私立探偵、警備員などを経て作家生活に入る。

初期は社会派推理小説を書いていたが、じきにスパイ小説、クローズド・サークル、パロディ小説、歴史小説など多彩な作品群を発表する。中でも海難事故もの（これについては西村本人が海が好きだったため。十津川警部は大学ヨット部出身という設定。）、誘拐もの（あらゆる犯罪の中で最も知能を要するので推理小説にふさわしいと考えたから）が多かった。日本中にトラベルミステリーというジャンルを示すきっかけとなったヒット作『寝台特急殺人事件』から全面的にトラベルミステリーに移行する。

列車や観光地を舞台とするトラベルミステリーに属する作品を数多く発表しており、シリーズキャラクターである十津川警部は有名である。多くの作品がテレビドラマ化（『西村京太郎トラベルミステリー』、あるいは『西村京太郎サスペンス・十津川警部シリーズ』など）されている。

西村が考えた鉄道などを使ったトリックやアリバイ工作は、そのリアリティが功を奏し根強い人気がある。近年では納税者ランキングの上位に名を連ねる。

オリジナル著作は2012年3月10日発行の『十津川警部秩父SL・三月二十七日の証言』で500冊に達し、その後も新刊の刊行は続いていて、単行本の累計発行部数は2億部を超える。この数字を記録した作家は、日本では2012年現在、西村と赤川次郎の2人しかいない。なお、彼は30代の前期から作家活動が続けているが、著作の90%以上は50歳を過ぎてから刊行されたものであり、作家としては大器晩成型の部類に属していると言える

目录:

[特急「しなの21号」殺人事件_下载链接1](#)

标签

西村京太郎

评论

西村著作No.228：十津川警部追踪无差别连续杀人现场共通的不吉灵签之谜。水准作，故事讲得流畅快速，前半部分案件逐一发生，后半部分终于回溯到合谋敲诈勒索的往事，少数场景颇有紧迫感，可以在四个小时内读完的娱乐小说。

[特急「しなの21号」殺人事件_下载链接1_](#)

书评

[特急「しなの21号」殺人事件_下载链接1_](#)